

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (農林水産業みらいプロジェクトコース)		訪問国	ミクロネシア連邦	
学校名	焼津水産高等学校	氏名	大石 美濤	学年	2

昨年10月に、学校内でトビタテ留学 JAPAN の募集案内があり、私は中学生のころから海外に興味を持っていたので、思い切って応募することにしました。はじめは、漠然とした軽い思いだったので、先生から「どこの国に行きたいのか?」、「海外で何をやりたいのか?」、「留学した経験を自分の将来にどう生かすのか?」と色々質問され、なかなかうまく答えられず困ったのを懐かしく思い出します。

私の将来の夢は、客船のキャビンアテンダントクルーとして就職し、船の仕事をしながらも、自ら海外からのお客様に日本や静岡の良いところを英語で紹介するような人になることです。私の学校には、そのような就職先からたくさんの求人が来るので、きっと就職すること自体は難しくないでしょうが、本当に英語でコミュニケーションが取れるようになるかは、少し不安もありました。

私の学校からは、私も含めて3人が応募し、先生に指導してもらいながら留学計画書づくりをスタートしました。他の2人は同じクラスで、私だけが違うクラスだったので、あまり相談することもできず、先生から勧められたミクロネシアへ留学することで、具体的な活動内容を考えていました。そんな中、先生から言われたのは、3人とも海・船・魚に興味があつて留学することを決意しているの、いっそのこと3人チームで応募したらどうかというものでした。チーム応募ということは、3人とも合格して留学できるかもしれないけど、不合格だったら3人ともダメということです。個人応募なら、不合格になっても自分の内容が甘かったと納得しますが、チームだと、自分のせいでみんなが不合格になるかもしれないという責任感と不安がありました。先生から提案され2日間考えた末にチームで応募することを決め、そこでクラスの違う2人と話し合うようになり、そのうち次第に仲良くなっていき、留学活動の役割分担などを決めていきました。



そして、合格発表の日。合格のメールが届いた時には本当にうれしく、みんなで握手して喜び合いました。でも、本当の不安は、ここからでした。英語は興味あるけど、それほど流ちょうにしゃべれるわけでもなく、まして初めての海外旅行で、いきなりミクロネシアに行くのだから、本当に活動ができるのか不安が大きくなってきました。



ミクロネシアに到着してからは、出発までに英会話の勉強をして、自分なりに準備を整えていたつもりですが、

ポンペイの空港では入国するときに英語で色々と質問され、その意味が分からず早くも不安が的中した感じでした。ですが、空港に出迎えに来てくれた受入れ先会社のケニーさんがとてもやさしく、根拠はないですが、何となく3週間やっていけるような気がしてきて、いよいよ本格的な留学活動が始まりました。

はじめに、在ミクロネシア日本国大使館を訪問して、ポンペイの治安や気を付けること、日本がミクロネシアで果たしている役割など、概要的な話を聞きました。他にも、大洋ミクロネシア社が所有する海外巻き網漁船や鯉節工場の見学、ダンプサイトといわれるゴミ置き場などもダークな部分も見せてもらいました。滞在中は、主にサンゴ礁の保護活動を行っている団体と一緒に、海に潜って死滅しているサンゴのエリアを見て回ったり、新しくサンゴ礁を増やすための活動を手伝ったりしました。見るからに熱帯の青く綺麗な海ですが、潜ってみると意外にも白くなったサンゴが全体に広がっていて、やはり地球温暖化の影響はあるのだと感じました。

私の留学テーマである食生活と健康の変化については、ポンペイ州立病院へ行って聞き取り調査をしました。驚いたことに、ポンペイの人は一日に4~5回の食事をとっているそうです。そのためか太った人が多く、若いうちに成人病で亡くなる人が多く平均寿命が短いとわかりました。もともとポリネシア系の海洋民族だった人々が、アメリカから輸入される肉食に変化したことが原因ではないかと思っていたら、やはりそのようでした。しかし、出生率も高いため、島には若者が多いという印象でした。

他にも、マタラニウム高校とカルバリー・クリスチャンアカデミーに行き、授業に参加させてもらいました。マタラニウムの高校生は、とても明るく元気でフレンドリーな人が多く、みんなと打ち解けるまで時間はかかりませんでした。

さいごに、私は今回の留学でとても大きな成果が二つありました。一つは、一緒に行った3



人の同級生との友情です。同級生とはじめての海外で、しかもアパートでの共同生活だったので、みんなの仲が深まり普通にはできない体験をさせてもらいました。もうひとつは、英語で会話することに自信がついたことです。英会話が得意ではない私でも、伝えたい意思が大切だということが分かりました。このような留学を支援してくださった親や学校の先生、グローバル事業に寄付していただいている企業の皆様には感謝したいと思います。ありがとうございました。

